

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」(第 6 回)を開催
～崩壊性地すべりへの対応や流木対策の進め方について議論します～

- 気候変動による降雨特性の変化等を踏まえ、新たに顕在化する土砂災害に対して適切な対策を講じていくため、技術検討会を開催し対策等の検討を進めております。
- 今回の検討会では、崩壊性地すべり^{*}の特徴に関する整理状況や土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策を進める上で必要となる考え方の検討状況を報告し、今後の施策の方向性等について議論します。

^{*}概ね 30 度未満の緩斜面で、降雨等によって突発的に発生し、土塊の大半が地すべり地から抜け出したものを「崩壊性地すべり」として、文献の収集を行っている。

1. 日時 令和 5 年 3 月 8 日 (水) 10:00~11:00 (予定)
2. 場所 東京都千代田区霞が関 2-1-3
中央合同庁舎 3 号館水管理・国土保全局 1 階 A 会議室 (WEB 会議併用)
3. 検討会設置の趣旨及び委員 **別紙 1**、**別紙 2**のとおり
4. 議事
 - ・過去に発生した崩壊性地すべりの特徴等について
 - ・土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方について
 - ・流域治水型砂防事業の展開について (情報提供)
5. その他
 - ・本会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、報道関係者に限り WEB 上のみでの傍聴とさせていただきます。
 - ・報道関係者で WEB 傍聴を希望される方は 3 月 7 日 (火) 12:00 までに以下のとおりメールにてご連絡ください。期日までにご連絡頂いた方に WEB 会議の URL 及び会議資料を送付します。
 - 件名:【WEB 傍聴希望】気候変動を踏まえた砂防技術検討会 (第 6 回)
 - 本文:氏名 (ふりがな)、所属、連絡先
 - 送付先: sakai-d85aa&&mlit.go.jp (&&を@に変えて送付してください)
 - ・これまでの検討会の経緯は**別紙 3**のとおりです。
 - ・会議資料及び議事録は、国土交通省ウェブサイトに掲載予定です。
https://www.mlit.go.jp/river/sabo/committee_kikohendo.html

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課
課長補佐 平田 遼 (内線 36-136)、係長 酒井 大介 (内線 36-135)
TEL: 03-5253-8111 (代表) 03-5253-8466 (直通)

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

開催趣旨

IPCC 第 5 次報告書においては、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、21 世紀末までにほとんどの地域で極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いことなどが予測されると報告されている。

このような中、平成 28 年北海道・東北地方を襲った一連の台風に伴う豪雨、平成 29 年九州北部豪雨、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年台風第 19 号に伴う豪雨など、近年、激甚な土砂災害を伴う豪雨が頻発している。気象庁においては、平成 30 年 7 月豪雨は地球温暖化の影響があったとしている等、既に温暖化の影響が顕在化しつつある状況と認識される。

今後のさらなる降雨特性の変化に伴い激甚化が予想される土砂災害に対し、適切な対策を講じていくためには、これらの降雨特性の変化に伴う対策の検討・実施に必要な関係諸量（土砂量等）の変化を適切に評価する必要がある。しかしながら、気候変動による降雨特性の変化により、どのような土砂災害の原因となる土砂移動現象（以下、「土砂移動現象」と言う。）が顕在化するか十分な科学的・技術的裏付けがされているとはいえない。また、土砂移動現象は、地質や地形、気候条件などの影響を受け、地域ごとに異なる可能性も考えられる。

そこで、本検討会においては、気候変動による降雨特性の変化により将来発生・顕在化が懸念される地域毎の土砂移動現象及び対策の検討・実施に必要な関係諸量の調査・評価手法の高度化等を図ることによって、土砂災害対策分野における気候変動への適応策の実施に資することを目的とする。

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

委員名簿

内田 太郎	筑波大学 生命環境系 教授
執印 康裕	九州大学 農学研究院 教授
中北 英一	京都大学防災研究所 所長 教授
◎ 藤田 正治	京都大学防災研究所 教授
堀田 紀文	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
松四 雄騎	京都大学防災研究所 准教授

◎：座長
(敬称略、五十音順)

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

これまでの経緯

- 現地調査会（令和元年12月9日）
 - ・ 現地調査会・意見交換会

- 第1回（令和2年1月8日）
 - ・ 顕在化・増加の恐れがある土砂移動現象、今後の検討の方向性の整理

- 第2回（令和2年5月21日）
 - ・ 中間とりまとめの公表

 - 以降、中間とりまとめに基づく調査・研究を開始

- 第3回（令和3年3月5日）
 - ・ 土砂災害対策分野における研究・技術開発の進め方、行政施策への反映の方向性の整理

- 第4回（令和4年1月6日）
 - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の抽出方法について議論

- 第5回（令和4年4月22日）
 - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の調査要領について議論
 - ・ 過去の土砂災害における降雨量と生産土砂量の関係分析について議論

- 第6回（令和5年3月8日）【今回】
 - ・ 過去に発生した崩壊性地すべりの特徴等について
 - ・ 土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方について
 - ・ 流域治水型砂防事業の展開について（情報提供）